

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	鈴鹿大学短期大学部
設置者名	学校法人享栄学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期大学部	生活コミュニケーション学科 食物栄養学専攻	夜間 通信	0	2	22	24	7	
	生活コミュニケーション学科 こども学専攻	夜間 通信			25	27	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

別添一覧表、2020年度からはシラバスによる公開を予定

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	鈴鹿大学短期大学部
設置者名	学校法人享栄学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

Web サイトにて公表 https://kyoei.mie.jp/officer.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元 株式会社 参与	3年	理事長補佐
非常勤	現 弁護士	3年	コンプライアンス 担当
非常勤	元 学校法人理事	3年	教学改革担当
非常勤	現 金融会社専務取締役	3年	総務担当
非常勤	現 一般社団法人理事	3年	スポーツ教育担当
非常勤	現 学校法人理事長	3年	高大連携担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	鈴鹿大学短期大学部
設置者名	学校法人享栄学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p>	
<p>1. 授業計画(シラバス)の作成過程</p> <p>(1) 各授業の代表教員はガイドラインを定めた「シラバス作成要領」を基にシラバスを作成する。</p> <p>(2) 各教員が作成したシラバスを、「第三者チェック」として、教務担当及び学部教員、学部長が記載内容を確認し、必要に応じて修正を指示した後に確定した内容を Web 公開している。</p>	
<p>2. 授業計画(シラバス)の作成・公表時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成入力 12月中旬～1月中旬 ・教務担当者確認 1月中旬 ・教員の相互確認 1月中旬～下旬 ・学部長確認 2月上旬～下旬 ・フィードバック・修正 3月上旬～中旬 ・Web 公開 3月下旬 	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>シラバスは次のホームページにて公開 鈴鹿大学短期大学部 https://www.suzuka-jc.ac.jp/campuslife/syllabus.html</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

次のとおり教育課程を設置し、単位の認定及び学習成果の評価を行っている。

1. 教育課程と履修単位

1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

なお、授業科目には、必修科目及び選択科目があり、内容により、教養基礎分野(外国語、日本語、情報科目、初年次教育、実務教育科目含む)、専門基礎分野、専門分野として科目を開設する。

また、各授業科目の計算の基礎は、次のとおりとする。

- ① 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ② 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合には、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
(鈴鹿大学短期大学部学則第28条)

2. 単位の授与

試験の上、成績を判定し単位を授与

(鈴鹿短期大学履修規程第9条)

3. 試験の方法

筆記、実技、口述試験のほか、論文又はレポートの審査

(鈴鹿大学短期大学部試験規程第3条)

4. 学修成績の評価

履修成績は定期試験等と平常の成績を考慮し、次の基準により評価している。

(鈴鹿大学短期大学部履修規程第8・9条)

評価	点数	合否	備考
秀	100~90	合格	S
優	89~80		A
良	79~70		B
可	69~60		C
不可	59以下	不合格	D
失格	-		E

また、成績通知後に学生からの疑義申立期間を設けることで、成績評価の公平性を保っている。

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPAの算出方法と活用</p> <p>次の成績評価によりGPAを算出し、学生の修学指導のほか、各種の支援に活用している。(鈴鹿大学履修規程第12条、鈴鹿大学短期大学部履修規程第9条)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">評価</th> <th>GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>100~90</td> <td>基本的な目標を十分達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。</td> <td>S</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>89~80</td> <td>基本的な目的を十分に達成している。</td> <td>A</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>79~70</td> <td>基本的な目的を達成している。</td> <td>B</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>69~60</td> <td>基本的な目的を最低限達成している。</td> <td>C</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>59以下</td> <td>基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td> <td>D</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>失格</td> <td>-</td> <td>欠席が多い等、試験の対象外</td> <td>E</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA=各科目の(単位数×ポイント)の合計÷総単位数(履修登録単位の総数)</p> <p>なお、GPAは、各学期末に学生へ交付する成績通知に記載することで、自らの学びの指標とするよう指導している。</p>		評価			GP	秀	100~90	基本的な目標を十分達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。	S	4	優	89~80	基本的な目的を十分に達成している。	A	3	良	79~70	基本的な目的を達成している。	B	2	可	69~60	基本的な目的を最低限達成している。	C	1	不可	59以下	基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。	D	-	失格	-	欠席が多い等、試験の対象外	E	-
評価			GP																																
秀	100~90	基本的な目標を十分達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。	S	4																															
優	89~80	基本的な目的を十分に達成している。	A	3																															
良	79~70	基本的な目的を達成している。	B	2																															
可	69~60	基本的な目的を最低限達成している。	C	1																															
不可	59以下	基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。	D	-																															
失格	-	欠席が多い等、試験の対象外	E	-																															
客観的な指標の算出方法の公表方法	鈴鹿大学短期大学部キャンパスガイド2019 p59-60																																		
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>建学の精神に基づき卒業の認定方針を定め、教育の実施に関する基本的な方針により卒業に必要な履修基準を定めている。</p> <p>1. 卒業の認定に関する方針の具体的な内容</p> <p>学部毎に卒業の認定方針を定め、教育の実施に関する基本的な方針により卒業に必要な履修基準を定めている。</p> <p>※各方針の具体的な内容は(3)学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要参照</p> <p>2. 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況</p> <p>学則第5節に卒業の要件、第3節に教育課程及び履修方法を定め、具体的な実施については、履修規程及びキャンパスガイドに定めた内容に基づいて行っている。</p> <p>学部の特徴</p> <p>短期大学部</p> <p>2年間で「土台となる力、生きる力、つながる力」を修得し、各専攻・コースの目指す職業人として必要な資格を取得するためのカリキュラムを設けている。</p> <p>(1) 卒業要件</p> <p>2年以上在学し、履修規定に基づき62単位以上を修得</p> <p>(2) 進級要件</p> <p>修業年限の2年間を通じて専攻毎の実践力育成を目指しているため進級要件は設定していないが、適格認定に関する基準を次のとおり定めている。</p> <p>1年前期終了時：16単位 1年後期終了時：32単位</p> <p>2年前期終了時：当該年度の卒業見込</p>																																			
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>3つのポリシー</p> <p>鈴鹿大学短期大学部 URL https://www.suzuka-jc.ac.jp/about/admissionpolicy.html</p> <p>キャンパスガイド2019</p> <p>鈴鹿大学短期大学部 三つのポリシーp2-5、学則 p101-123</p>																																		

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	鈴鹿大学短期大学部
設置者名	学校法人享栄学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://kyoei.mie.jp/pdf/bs30.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://kyoei.mie.jp/pdf/shikin30.pdf
財産目録	https://kyoei.mie.jp/pdf/zaisan30.pdf
事業報告書	https://kyoei.mie.jp/pdf/jigyos30.pdf
監事による監査報告(書)	https://kyoei.mie.jp/pdf/kansa30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: Web公開 URL https://www.suzuka-iu.ac.jp/about/disclosure/index.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: Web公開 URL https://www.suzuka-jc.ac.jp/about/assessment.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 短期大学部
教育研究上の目的 (公表方法: Web 公開) URL http://www.suzuka-jc.ac.jp/about/admissionpolicy.html
(概要) 教育目標 社会で活躍できる職業人として、次の 3 つの力を身に付けられることを目標としています。 <ul style="list-style-type: none"> ・土台となる力: 学力 (基礎教養、専門領域に関する知識、技能)。 ・生きる力: 問題解決能力 (自ら課題を発見し、解決する能力) を有すること。 ・つながる力: コミュニケーション能力 (他者への寛容さ、論理的・芸術的表現、他者との協働性) を有すること。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 同上) (概要) 2 年以上在学し、次の力が身に付くよう教育課程及び履修基準に基づき学習し、62 単位以上を修得します。 食物栄養学専攻 栄養教諭・栄養士コース <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士・栄養教諭として必要な知識を有すること。 ・栄養士・栄養教諭として必要な調理技術・計算能力等の技能を有すること。 ・栄養・健康問題において自らの課題とその解決法を見つけ、行動変容する意思を有すること。 ・自らがキャリア開発に努め、食べ物を通して健康づくりに携わる力を有すること。 ・健康づくりを支援する諸活動に積極的に参加し、それぞれの対象特性に応じた関わりを行う力を有すること。 ・栄養指導・栄養教育において、円滑なコミュニケーションを図る力を有すること。 こども学専攻 幼稚園教諭・保育士コース <ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育に携わる者としての必要な知識 (教育学、心理学等) を有すること。 ・就学前教育に携わる者としての必要な技能 (音楽、造形、運動等の技能) を有すること。 ・教育実践において、自ら課題とその解決方法を見つけ、解決に当たる意思を有すること。 ・自らのキャリアを開発し、社会において自らの力を役立てようとする能力を有すること。 ・ことば、音楽、造形、運動・遊びを通じて子どもたちとつながる力を有すること。 ・子どもを取り巻く様々な他者 (保護者、同僚、地域) とつながっていくためのコミュニケーションスキルを有すること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 同上) (概要) 専攻毎の求める知識が身に着けられるよう次のとおり基礎教育科目と専門教育科目による教育課程を編成しています。 基礎教育科目 (共通) の目的 <ul style="list-style-type: none"> ・本学での学びおよび生涯にわたる学びの土台を育成する。 ・多様な領域への関心と探求への意欲と自らの人生を切り拓く態度を育成する。 ・他者への関心および他者へと繋がろうとする意欲と他者を尊重する態度を育成する。 専門教育科目の目的 食物栄養学専攻 栄養教諭・栄養士コース <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士・栄養教諭に必要な知識・技術を育成する。 ・食に関する問題を自ら解決するための自己学習能力を育成する。 ・積極的に食育活動へと関わる力を育成する。

<ul style="list-style-type: none"> ・食教育における対象者とのコミュニケーション能力を育成する。 ・食の指導者として必要な自己表現能力を育成する。 <p>こども学専攻 幼稚園教諭・保育士コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の知の土台となる保育学・教育学・心理学等を学び、論理的思考や物事の本質を見抜く力を育成する。 ・保育実践の土台となる音楽・造形・運動遊び等の技能を、個々のニーズに応じて育成する。 ・保育者として必要な自己研鑽の意識を持ち、保育実践上の課題を能動的・主体的・協働的に発見し解決する力を育成する。 ・こどもと家庭の福祉の担い手としての責任感・使命感を持ち、自ら進んで他者や地域にかかわることのできる力を育成する。 ・心と体を使い、言葉・音楽・造形・運動など、さまざまな方法で自らを生き生きと表現する力を育成する。 ・こどもやその家族、同僚や地域の人々などの多様な他者を、的確に深く理解するためのコミュニケーション能力やカウンセリングマインドを育成する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：同上）</p> <p>（概要）</p> <p>次の素養を持つ者が入学し意欲的に学ぶことを期待しています。</p> <p>生活コミュニケーション学科（共通）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校で履修したすべての教科で教科書レベルの基礎知識・技能を有する人 2. 自ら積極的に学んでいく意欲がある人 3. 現代社会に関心を持ち、地域社会に貢献したいと考えている人 4. 他者とコミュニケーションがとれ、協調性がある人 5. さまざまなことがらを多面的に考え、自らの考えを表現できる人 <p>食物栄養学専攻 栄養教諭・栄養士コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士、栄養教諭となるための基礎知識・技能（家庭、体育、理科、数学等）を有する人 ・栄養と健康に関心を持ち、学ぶ意欲がある人 ・栄養や健康に関する課題に関心をもち、地域社会に貢献したいと考えている人 ・さまざまな世代の人々とコミュニケーションがとれる人 ・栄養や健康に関する課題に対して自らの考えを表現できる人 <p>こども学専攻 幼稚園教諭・保育士コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間で即戦力の保育者となるための基礎的能力（音楽、体育、美術等）を有する人 ・幼児教育や福祉に関心を持ち、学ぶ意欲がある人 ・こどもや他者、社会と積極的に関わり、地域社会に貢献したいと考えている人 ・書く、読む、話す、聞く等の基本的なコミュニケーション能力がある人 ・音楽、美術、体育等で自己表現ができる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：Web 公開 URL <https://www.suzuka-jc.ac.jp/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
短期大学部	—	5人	4人	人	5人	1人	15人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		15人					16人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		鈴鹿大学短期大学部 URL https://www.suzuka-jc.ac.jp/about/professors/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
短期大学部	90人	64人	71%	180人	145人	80%	人	人
合計	90人	64人	71%	180人	145人	80%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
短期大学部	75人 (100%)	0人 (%)	71人 (94.7%)	4人 (5.3%)
合計	75人 (100%)	0人 (%)	71人 (94.7%)	4人 (5.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) 次のとおり教育課程を設置し、単位の認定及び学習成果の評価を行っている。</p> <p>教育課程と履修単位 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。 なお、授業科目には、必修科目及び選択科目があり、内容により、教養基礎分野（外国語、日本語、情報科目、初年次教育、実務教育科目含む）、専門基礎分野、専門分野として科目を開設する。また、各授業科目の計算の基礎は、次のとおりとする。</p> <p>① 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。 ② 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。 ③ 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合には、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。 (鈴鹿大学短期大学部学則第28条)</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要) 次のとおり単位の認定及び学習成果の評価を行っている。</p> <p>1. 単位の授与 試験の上、成績を判定し単位を授与 (鈴鹿大学履修規程第9条)</p> <p>2. 試験の方法 筆記、実技、口述試験のほか、論文又はレポートの審査 (鈴鹿大学試験規程第3条)</p> <p>3. 学修成績の評価 履修成績は定期試験等と平常の成績を考慮し、次の基準により評価するとともに GPA を算出し、学生の修学指導のほか、各種の支援に活用している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4">評価</th> <th>GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>秀</td> <td>100~90</td> <td>基本的な目標を十分達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。</td> <td>S</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>89~80</td> <td>基本的な目的を十分に達成している。</td> <td>A</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>79~70</td> <td>基本的な目的を達成している。</td> <td>B</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>69~60</td> <td>基本的な目的を最低限達成している。</td> <td>C</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>59以下</td> <td>基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。</td> <td>D</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>失格</td> <td>-</td> <td>欠席が多い等、試験の対象外</td> <td>E</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>GPA=各科目の(単位数×ポイント)の合計÷総単位数 (履修登録単位の総数) なお、GPAは、各学期末に学生へ交付する成績通知に記載することで、自らの学びの指標とするよう指導している。 このほか、一部の科目にルーブリック評価を導入している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業に必要となる単位数</th> <th>GPA制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>短期大学部</td> <td>生活コミュニケーション学科</td> <td>62単位</td> <td>有</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td colspan="2">GPAの活用状況 (任意記載事項)</td> <td colspan="3">公表方法：無</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)</td> <td colspan="3">公表方法：無</td> </tr> </tbody> </table>	評価				GP	秀	100~90	基本的な目標を十分達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。	S	4	優	89~80	基本的な目的を十分に達成している。	A	3	良	79~70	基本的な目的を達成している。	B	2	可	69~60	基本的な目的を最低限達成している。	C	1	不可	59以下	基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。	D	-	失格	-	欠席が多い等、試験の対象外	E	-	学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	短期大学部	生活コミュニケーション学科	62単位	有	無	GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：無			学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：無		
評価				GP																																																			
秀	100~90	基本的な目標を十分達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。	S	4																																																			
優	89~80	基本的な目的を十分に達成している。	A	3																																																			
良	79~70	基本的な目的を達成している。	B	2																																																			
可	69~60	基本的な目的を最低限達成している。	C	1																																																			
不可	59以下	基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。	D	-																																																			
失格	-	欠席が多い等、試験の対象外	E	-																																																			
学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)																																																			
短期大学部	生活コミュニケーション学科	62単位	有	無																																																			
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：無																																																					
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：無																																																					

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

[https://www.suzuka-jc.ac.jp/wp-](https://www.suzuka-jc.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/kouti_kousya_201703.pdf)

[content/uploads/2016/05/kouti_kousya_201703.pdf](https://www.suzuka-jc.ac.jp/wp-content/uploads/2016/05/kouti_kousya_201703.pdf)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
短期大学 部 (新2年)	生活コミュニケーション学科	530,000円	250,000円	270,000円	
短期大学 部 (新1年)	生活コミュニケーション学科	800,000円	250,000円	0円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

・教員による支援 (セミナー・ゼミ担任制)

入学後の学習や学生生活に少しでも馴染めるように、入学前よりプログラムが組まれています。入学当初にゼミ担当教員が決まり、授業や生活全般、そして進路に関して一人ひとりの学生に個別指導を行っています。1年次の「総合演習」科目では、学ぶことの意義を考え、大人としての常識やマナー、コミュニケーション法を習得するために専攻別のプログラムが組まれています。

・教務・学生支援課の支援

学生の学内外での活動や、学生生活が楽しく円滑に進められるように支援するのが教務・学生支援課です。学習全般から各種手続き・各種証明書の発行などを行っています。学生の様々な相談に応じていますので、気軽に窓口に来てください。

窓口開室時間 月～金曜日 9:00～17:30 場所：A棟1階

・オピニオン・ボイス

学生生活の様々な問題を感じたら、大学側へ文書で意見を伝えることができます。本学教職員は常に大学の改善を考えていますが、学生の視点に基づく意見・アイデアも大変重要であると考えています。その文書の内容によって、担当部署が検討し、それぞれの立場から回答します。それを、学内に掲示して、問題解決の周知を心がけています。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

就職支援の取組

・一人ひとりの就職活動をきめ細かくサポート

担当スタッフとゼミ担当教員が連携し、学生一人ひとりの進路について指導を行っています。特に面談を中心とした個別指導に力を入れています。エントリーシートの書き方などもきめ細やかに指導しています。

・インターンシップを単位認定

インターンシップは単位認定された研修であり、積極的な学習意欲を養い、実社会の体験を活かし、職業観の向上を目指し取り組んでいます。本人の希望に添った研修先に行けるよう努めています

主なインターンシップ先

官公庁・企業関係：津市役所、松阪市役所、三重銀行、三重日産自動車など

旅行・ホテル関係：JALスカイ東京、三重交通、帝国ホテル、名古屋観光ホテルなど

・就職支援専用ウェブサイトで求人情報を公開

求人票の検索や各地で開催されるセミナーの紹介、就職支援ウェブサイトへのリンクなど24時間就職への支援を行っています。

・卒業後もフォロー

東海地区の就職内定先へのお礼訪問を実施しています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

健康管理センターの取組

健康管理センターでは、学生のみなさんがキャンパスライフを十分にエンジョイすることができるよう、からだところの両面から健康管理を行う施設です。

年に4回「健康管理センター便り」を発行し、みなさん自らが健康管理を行えるように支援しています。

保健室では、健康診断に伴う健康調査を行い、学生生活上必要な情報を把握し、健康管理を行います。また、感染症の流行情報を把握し、予防のための指導や措置も行います。さらに、体調不良、不慮の事故等の対応、応急処置・看護を行います。

学生相談室では、こころとからだの相談、進路、学習、友達関係などの悩みなどをお聴きしています。基本的には予約制になりますので、保健室で予約してください。

保健室 開室時間：月～金曜日 9:30～17:30 場所：D棟1階

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：URL <https://www.suzuka-jc.ac.jp/about/disclosure/index.html>